

設定時間、設定場面、設定状況。体験的、実践的な避難訓練にするための改善の視点

日曜日の午前中、他校との練習試合が終了した直後、突然大きな揺れが発生。各自、「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所に移動する。管理職は不在であり、避難誘導の指示はない。本校の教員が中心となり、校庭への避難誘導を行う。液状化の場所を避けて人員確認を行い、休業日に、学校で発災した際の安全行動について確認する。

【Aーキ】部活動中 【Bーア】管理職が不在 【Bーキ】運動場が液状化し、使用できずない。

1 時間・場所等

日曜日の午前11時45分、部活動の練習試合終了直後に地震が発生する設定(計25分間)

2 避難訓練の時系列及び児童・生徒及び教職員の動き

時間等	設定状況等	生徒の動き	教職員の動き
11時45分	● 大きな揺れが発生 (体育館)	● 各自、身の安全を図る。 ・「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所へ。 ● 水銀灯やバスケットゴール、窓ガラス等が降ってこない場所、消火栓のホースが出てこない場所にしゃがみ、手や鞆、ボール等で頭を守る。	● 生徒に危険回避行動を指示するとともに、自身も避難行動を取る。 ● 自校の生徒はもとより、他校の教職員や生徒等に対して、落ち着いて避難行動を取るよう指示する。 ● 体育館の入口及び非常口の近くにいる教職員・生徒にドアを開けるよう指示する。 ● 使用していたボールは転がさず、手でもつように指示する。
11時50分	● 揺れが収まる。	● ガラス等の危険物が散乱していない場所に集合する。 ● 自他のけがの有無の確認	● 体育館の被害状況を確認。教職員・生徒の状況把握 ● 負傷者の有無の確認 ● 携帯ラジオ等で情報収集 ● 各校の管理職に連絡→連絡付かず。 ● 余震による落下物の危険性があるため、体育館に留まることが困難と判断
11時55分	体育館入口開かず ● 非常階段から避難開始	● 本校の部活動の顧問の指示のもと、非常階段を使って、校庭に避難開始 ● 「おかしも」の約束を守り、落ち着いて避難する。	● 本部設営及び指揮 ・本校の教員を先頭に避難を開始する。 ● トイレに残留児童・生徒がいらないかを確認する。
12時	校庭液状化 ● 人員点呼 ● 避難完了 ● 二次避難決定	● 液状化の場所を避けて、校庭に集合する。 ● 各校ごとに整列 ● 避難場所への二次避難が決定したことを理解する。	● 液状化していない場所に集め、人員確認 ● 液状化に伴い、避難場所への避難を決定する。
12時05分 (5分間)	● 講評 【全校一斉指導】	● 自身の避難行動について振り返る。	● 本校部活動顧問から、特に以下の点について指導する。 ・いっどこで被災するか分からないことを踏まえ、日頃から準備しておくことや、いざという時の心構えについて確認する。